

登録コード	A3594356	開講年度	2026				
授業科目	専攻研究					担当教員	鈴木 香奈子
英文授業名	Thesis Research						
単位数	2	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	3年生（研究室配属後の学生対象）
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ, 2 0 2 1 Aカリ, 2 0 2 0 Aカリ, 2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前カリ対象】専門的な知識や研究能力を修得している				土壌学、栽培学の基礎知識を学び、学術論文を読みこなせる力を培うこと。		
	【2022年度以前カリ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				土壌学、栽培学の基礎知識を学び、学術論文を読みこなせる力を培うこと。		
	2 0 2 6 A3 編（24A）, 2 0 2 5 A3 編（23A）, 2 0 2 4 Aカリ, 2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前カリ対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				土壌学、栽培学の基礎知識を学び、学術論文を読みこなせる力を培うこと。		
	【2024年度以前カリ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				土壌学、栽培学の基礎知識を学び、学術論文を読みこなせる力を培うこと。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	農業の基盤となる土壌に着目したセミナーを実施していく。各人がテーマに沿って発表を行い、栽培土壌学に関する知識を深めていく。土壌の化学性、物理性、生物性の多岐にわたる知識を培う講義である。						
(5)授業計画	1．研究テーマの作出（指導教員と共に行う）。 2．自身の研究テーマに沿った既往の研究論文を読み、研究の背景を理解する。 3．研究計画を作成する（指導教員と共に行う）。 4．試験の準備を行う。 5．基礎知識を培うために毎週セミナーを開催する。						
(6)自主学習の指針	教科書として指定している本を読み込むこと。						
(7)成績評価の基準	1．農業研究の必要性について理解できているか 2．自身の研究の位置づけが理解できているか 3．研究計画を自身でどこまで作ることができるか 以上の3項目について、「卓越している」、「かなり理解できている」、「おおよそ理解している」、「少しだけ理解している」というような理解程度で採点する。						
(8)事前事後学習の内容	事前に自身で何を研究テーマとしたいのか考えること。授業後は、指摘され修正しなくてはならない点について熟慮し、研究計画をきちんと立てていくこと。						
(9)テストやレポートの予定	○テストなどはありませんが、自分の研究に沿った論文や参考書を読み、それについて簡易的に報告してもらいます。 ○最後の15分間は授業アンケートに回答するための時間とします。						
(10)成績評価の方法	（５）に基づくが、積極的に指導教員に質問する姿勢や研究の背景をしっかりと調べる姿勢に加点します。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	email:kanasuzu@shinshu-u.ac.jp						
(12)履修上の注意	自分で考えてみる、自分でやってみる、積極的にチャレンジする姿勢をもってほしいと思います。						
【教科書】	土壌と微生物と肥料のはたらき 山根一郎著 農文協 最新土壌学 久馬一剛編 朝倉書店 作物はなぜ有機物・難溶解成分を吸収できるのか 阿江教治・松本真悟著						
【参考書】	研究テーマに関連する論文をしっかりと調べておいてください。						